



開発力・運営力の強化



マーケティングイノベーションの推進

合併効果の実現

WA^KU WA^{KU}? 通信

目標に向かって
着実な実行

目次

株主の皆さまへ	1
合併以降の取り組み	3
愛知特集	5
商品・サービス情報	6
2005年2月期の概況	7
決算解説	8
要約財務諸表	9
環境への取り組み・社会貢献活動	14
コンビニエンスストア業界比較	15
株主還元策	16
株主様アンケート結果のご報告	17
株式情報 / 会社情報	18

2005年2月期 事業報告書

2004年3月1日～2005年2月28日

[証券コード：3337]



2005年2月期は、以前からお伝えしていた通り業績をV字回復するとともに、昨年秋に策定した3ヵ年計画における初年度の利益を達成しました。

合併後の取り組み

2004年9月1日に株式会社サークルKサンクスが誕生してから、約9ヵ月が経とうとしています。P.3,4でもご紹介しております通り、この間当社は3ヵ年計画の達成を目指しあらゆる方面から取り組みを行ってきました。ベンダーや物流の統合をはじめ、各業務のプロセスを1本化することでコスト削減を図ったほか、6,000店を超えるチェーン規模を活かした販売促進活動やサービスの拡大で売上の向上にも努めました。これらすべての取り組みの原動力となるのは、社員の強いチームワークです。私はその強いチーム力を最大限に引き出せるよう、出身会社にとらわれることなくお互いの強みや弱みを共有できる新たな企業風土づくりに注力いたしました。その結果、当初は今年の秋に実施する予定であった組織改編を半年前倒しして実施することができ、1本化を促進するとともに合併効果を最大限に発揮するための体制を整えました。

2005年2月期の業績について

当期は店舗純増による売上増加に加え経費の節減に努めた結果、利益計画を達成し増益となりました。構造改革を断行した前期は大量閉店を行ったため、店舗数が純減し減益となりましたが、当期の利益は予定通りV字回復を遂げることができました。また、当期は昨年秋に発表した3ヵ年計画の1年目にあたりますが、初年度の利益計画についても達成することができました。一方P.7にて詳しくお伝えしております通り、店舗数は123店の純増となったものの、出店数は計画の400店を54店下回る結果となりました。また、既存店の売上前年比についても、前年比+0.3%となったサークルKに比べ、サンクスは-2.3%と厳しい結果に終わっています。後ほど述べさせていただきますが、2006年2月期はこれらの課題について重点的に取り組んでいく考えです。

以上の結果、チェーン全店売上高は計画には届かなかったものの、連結子会社が加わった影響や新店売上の寄与などにより、前期比3.5%増の9,335億2千1百万円となりました。一方で、経費の節減に努め販管費が計画を約16億円下回ったことにより、連結営業利益は前期比8.7%増の243億8千4百万円となりました。また、連結経常利益についても前期比19.9%増の236億2千5百万円、そして連結当期純利益も65.4%増の126億5千4百万円と、いずれも計画を上回ることができました。なお、期末配当については、記念配2円を含む前

サークルKサンクス連結業績

(単位:百万円)

	05/2期	前期比
チェーン全店売上高	933,521	+3.5%
営業総収入	176,843	+4.3%
営業総利益	132,099	+3.4%
営業利益	24,384	+8.7%
経常利益	23,625	+19.9%
当期純利益	12,654	+65.4%
総資産	201,055	-1.9%
株主資本	110,043	-0.8%
期末店舗数(エリアFCを含む)	6,339店	+187店

(注)左表および文中における05/2期の経営成績は実質ベースの数値です。詳しくはP.8をご覧ください。

期比4円増配の20円とさせていただきますので、年間配当は36円となりました。

2006年2月期の取り組みについて

コンビニエンスストア業界だけでなく異業種も含めて競争は激しさを増しており、外部環境は依然として厳しい状態が続いています。このような中、当社の経営ビジョンである「持続的安定成長」を実現するためには、3ヵ年計画の達成が最優先課題となります。そしてこの3ヵ年計画を達成するため、当社が2006年2月期において重点的に取り組んでいくのが次の3点：①合併効果の実現、②開発力・運営力の強化、③マーケティングイノベーション(改革)の推進です。ベンダーや物流の統合などを拡大して合併効果を実現していくことはもちろん、店舗の開発力については、新しく「ニューエリア」という部を設け未出店地域へも進出を行い出店計画の達成を目指します。また、店舗の運営力については、従業員の戦力化を図る教育カリキュラム「店舗運営の6段階」を浸透させることで売上の伸長を図るほか、商品やサービスについてもP.6でご紹介しているように当社だけのオリジナリティを追求し、改革を起こしていきたいと考えています。

2006年2月期につきましては、質を重視した出店を進めるため、出店計画を昨年秋の発表値より50店引き下げたものの、引き続き経費節減に努めるとともに合併効果も見込めることから、営業利益と経常利益につ

いては当初計画と同じ水準を予想しております。ただし当期純利益につきましては、P.8にてご説明申し上げている通り減損会計導入など会計処理変更の影響を受け、前期比若干のマイナスとなっております。以上の結果、2006年2月期の連結営業利益は13.3%増の276億2千万円、連結経常利益は9.8%増の259億3千万円、そして連結当期純利益は0.8%減の125億5千万円を見込んでいます。

表紙は2006年2月期における当社の取り組みをイメージしています。3ヵ年計画、ひいては持続的成長を目指し、重点的な取り組みである3つのポケットへ着実にサークルKとサンクスの玉を入れていくため、強い意志をもってサークルKサンクスという玉を突き動かしてまいります。株主の皆さまには、今後ともなお一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

土方 清

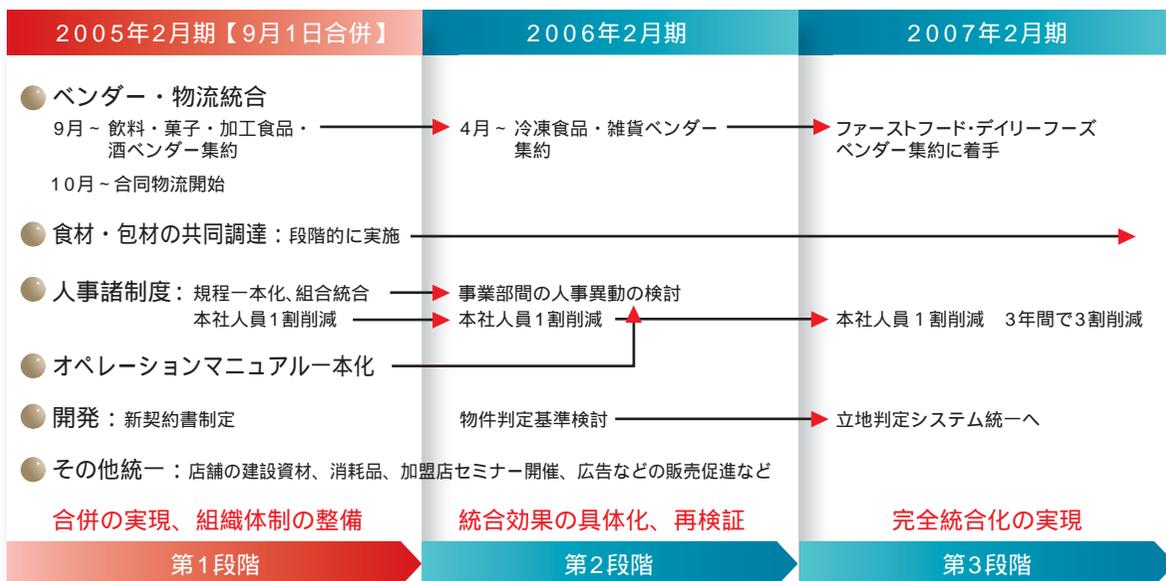
合併以降の取り組み

業務プロセス1本化の進捗状況

当社は合併に際して3ヵ年計画を発表しました。この3ヵ年計画を達成するため、2007年2月期までに下図のスケジュールに沿って各カテゴリーごとに業務プロセスの1本化を進めています。

第1段階にあたる2005年2月期の主な統合内容は次の通りです。ベンダーと物流の統合については、9月より飲料・菓子・加工食品・酒の4カテゴリーにおいてサークルKとサンクスのベンダーを集約し、10月からは合同物流を開始しました。合同物流とは、これまでサークルKの配送トラックはサークルK店舗のみというようにチェーンごとに行っていた配送を、1台のトラックで両チェーンへ納品を行うもので、物流効率の改善につながっています。また、加盟店向けセミナーを統一仕様とすることでコストの削減を図ったほか、人事制度についても給与体系や規程、組合を完全に1本化しました。その他のカテゴリーについても予定通り進捗しています。

業務プロセス完全一本化までのスケジュール

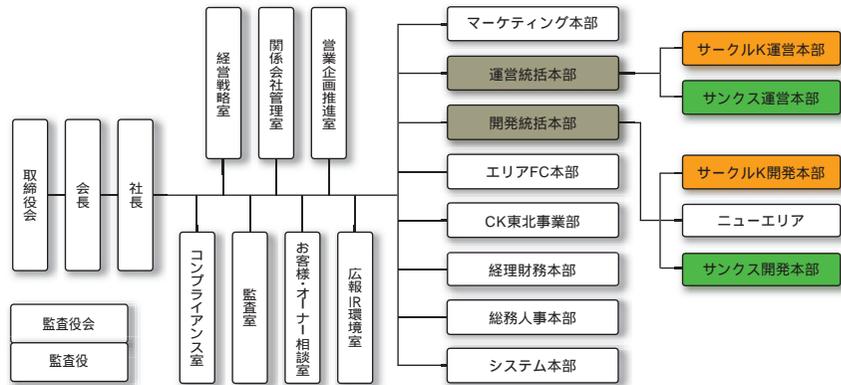


2005年3月1日付 組織改編

2006年2月期の経営方針である「合併効果の実現」をよりスピーディーに推進するため、スケジュールを前倒しし2005年3月1日付で右ページの通り組織を改編いたしました。改編の最大のポイントは、事業本部制を廃止したことです。以前は、開発本部と運営本部がサークルK事業本部とサンクス事業本部の下にそれぞれ配置されている「チェーン別」の体制でしたが、新組織では事業本部制を廃止して運営統括本部と開発統括本部を設置し、その下にサークルK部門とサンクス部門をそれぞれ配置するという「機能別」の体制を採用しました。機能別に統括本部を置くことで、運営および開発に関してチェーンの別なく一体管理することが可能となります。また、前述の通り人事制度が統一されたことで、サークルKに携っていた者をサンクス部門へ、その逆も然りというように、チェーンを超えた適材適所への配置が実現できました。

株式会社サークルKサンクス組織図

(2005年3月1日現在)



合同キャンペーン

合併時の「WAKUWAKU?キャンペーン」を皮切りに、テレビCMを積極的に投入しながらサークルK・サンクスの合同キャンペーンを行い、売上の向上に努めました。北海道をテーマにしたオリジナル商品や道内限定販売の商品を取り揃えた「ドド〜とおいしい北海道フェア」に続き、年末年始には1年間のご愛顧へ感謝の気持ちを込めた「ハッピーカモンフェア」を、そして次のページで詳しくご紹介している「どえりゃ〜うみや〜、元気な名古屋!名古屋フェア」を展開しました。今後も6,000店を超えるチェーン規模ならではの販売促進を行い、キャンペーン期間しかお買い求めいただけない魅力的な商品やお買い得なセール、豪華懸賞などで、お客様に訴求していく考えです。



サービスの拡大

当社は6,000店超のチェーン規模を基盤にサービスにも力を入れ、お客様に利便性をご提供することで売上の向上へつなげていきたいと考えています。2004年4月には郵便ポストを全店のレジカウンターへ設置し、9月にはクレジットカードの取り扱いを全店で開始しました。

また、7月から一部地域で先行導入していた電子マネー「Edy」による決済を2005年4月より全店へ拡大しています。このEdy導入と併せて、サークルKサンクスの会員組織「KARUWAZA CLUB(カルワザクラブ)」を立ち上げ、Edy機能のついたサークルKサンクスのカード「KARUWAZA CLUB」カードを販売しています。このカードは電子マネーEdyとして、サークルK・サンクスはもちろんEdyに加盟している全店でお使いいただくことができ、さらにインターネットで「KARUWAZA CLUB」へ会員登録いただくと、ポイントプログラムやメールマガジンといった特典をご利用いただけるものです。ポイントプログラムでは、サークルK・サンクスでチャージ(入金)をしていただく度にポイントが貯まり、貯まったポイントで素敵なプレゼントにご応募いただけます。なお、Edyのご利用方法については、P.6をご覧ください。



KARUWAZA CLUBカード
(北海道版はデザインが異なります)



～今、愛知が熱い！～

愛知特集



当社は全6,339店の17%にあたる1,061店を愛知県に展開し、圧倒的な集中出店を行っています。また、当社の株主様の4分の1は愛知県在住の方です。このように、当社とは切っても切れない関係の愛知県が、昨今注目を集めています。2005年2月17日の中部国際空港(セントレア)開港に続き、3月25日には185日間にわたって開催される愛・地球博が幕を開けました。このように今、目が離せない愛知県において、当社も独自の取り組みを行っています。2005年2月末現在の店舗数



海老天むす(5ヶ入)



わらじ味噌カツ弁当



世界の山ちゃんスナック
幻の手羽先味



どえりゃ～うみや～、元気な名古屋!名古屋フェア(2005年3月15日～4月4日)

名古屋の「食」にスポットを当て、オリジナル商品を中心に46アイテムを展開しました。手羽先が人気の「世界の山ちゃん」など、愛知県内の有名人気店とタイアップした菓子やカップ麺のうち、以前人気の高かったものを選びすぐって発売したほか、味噌カツや天むす、あんかけスパゲティといった代表的な名古屋グルメも取り揃え、注目の集まる名古屋の雰囲気そのままに活気ある売場を実現しました。



中部国際空港 貨物地区事務棟内
「サークルKセントレア店」

「中部国際空港「愛・地球博」への出店

前述の通り注目を集めている中部国際空港と愛・地球博へ出店を行いました。中部国際空港では、利用者が行き交うアクセスプラザにサンクスを、そして貨物地区には従業者向けのサークルKを出店しました。また、愛・地球博の長久手会場では、サークルKとサンクスをそれぞれ出店しました。この「サークルK愛・地球博店」は環境負荷を低減した設計となっています。詳しくはP.14をご覧ください。



オリジナルATM「ゼロバンク」

引き出し手数料0円「ゼロバンク」の導入

当社は大垣共立銀行と業務提携し、2005年9月を目処にオリジナルATM「ゼロバンク」を愛知県と岐阜県の全店へ設置する予定です。「ゼロバンク」とはその名の通り、大垣共立銀行はもちろんのこと、全国約1,600にのぼる提携金融機関のキャッシュカードでも、平日と土曜の時間内引き出し手数料が0円でご利用いただけるATMです。その他の地域への導入は現在未定ですが、積極的に推進していく方針です。

郵便貯金に限り時間内手数料105円

「ユナイテッド・カラーズ・オブ・ベネトン」ブランドのオリジナル雑貨販売

当社はベネトン・ジャパン株式会社とライセンス契約を締結し、2005年4月7日より「ユナイテッド・カラーズ・オブ・ベネトン」ブランドの雑貨を販売しています。今回展開する49アイテムは、化粧品・タオル・サングラスなど各分野のトップクラスメーカー10社による商品を「ベネトン」がデザインプロデュースしたもので、当社でしかお買い求めいた



だけないオリジナル商品となっています。従来は外出先で突然必要になった時に購入するものという嫌いのあったコンビニエンスストアの雑貨ですが、「選ぶ」楽しさ、そして「使う」楽しさをご提供することで、近年多様化しているお客様のニーズにお応えしていく考えです。

Edyご利用方法

P.4でもご紹介した通り、サークルK・サンクスでは電子マネー「Edy」がご利用いただけます。電子マネーと聞くとやや取っつきにくい印象を持たれる方もいらっしゃるかもしれませんが、「Edy」は小銭いらずでスピーディーにお買物をお楽しみいただける簡単な決済方法です。ここでは「Edy」のご利用方法を詳しくご紹介します。



お買い上げいただいた「KARUWAZA CLUB」カード(Edy)は残高が0円のため、まずレジでのチャージ(入金)が必要となります。また、既にお持ちのEdyカードの残高がなくなった場合も同様にチャージをして下さい。

- 1 ▶ レジで「Edyカードにチャージ」とお申しつけ下さい。
- 2 ▶ Edyカードをレジ横のEdy読み取り機に置いて下さい。(右上写真ご参照)

レジ画面からチャージする金額のボタンを選び、その金額を現金で店員にお渡し下さい。チャージ金額は、千円・2千円・3千円・5千円・1万円からお選びいただけます。

- 4 ▶ チャージが終了すると、光と音でお知らせします。Edyカードをお取り下さい。

- 1 ▶ ご精算の際、レジで「支払いはEdyカードで」とお申しつけ下さい。
- 2 ▶ Edyカードをレジ横のEdy読み取り機に置いて下さい。(右上写真ご参照)
- 3 ▶ お支払いが終了すると、光と音でお知らせします。Edyカードをお取り下さい。
- 4 ▶ 残高はレシートに表示されます。

「KARUWAZA CLUB」カードとは、当社が発行しているEdyカードです。当社以外のEdy加盟企業が発行したEdyカードやEdy機能が搭載された携帯電話「おサイフケータイ」も同様の手順でご利用いただけます。



「KARUWAZA CLUB」カード

2005年2月期の概況

売上の状況

2005年2月期の既存店売上前年比はサークルKサンクスで - 0.9%となりました。チェーン別に見るとサークルKが + 0.3%、サンクスが - 2.3%というように両チェーンで差が開く結果となっています。サンクスは全店舗の2割以上を占めている北海道と東北地方において厳しい売上状況が続いており、また全売上の1割弱を構成する酒の売上についても、従来、業界一の酒取り扱い店比率を誇っていたために、酒販売自由化による競合の影響を大きく受け、伸び悩みの状態が続いています。一方、サークルKは、例年になく多かった台風の影響などで下期に入るとやや厳しい状態が続いたものの、年間を通して売上が比較的堅調に推移したうえ、継続的な取り組みによる惣菜の伸長や売上構成比の2割弱を占めるタバコ的好調もあって2001年2月期以来の前年比プラス着地となりました。

出店の状況

2005年2月期におけるサークルKサンクスの出店数は、400店の計画を54店下回る346店となりました。チェーン別では、サークルKが計画数に22店届かず193店、サンクスが32店届かず153店となっています。当期も引き続き投資採算を重視するとともに、競争に打ち勝つ質の高い店舗の開発に努めましたが、新店日販についてもサークルKが43万9千円、サンクスが43万5千円と前期を下回る大変厳しい結果となりました。一方で、病院内や高速道路のパーキングエリア、そしてP.5でもご紹介した中部国際空港や愛・地球博など、お客様にさらなる利便性をご提供するとともに、当社としても集客を見込むことができる新しい立地への出店を積極的に行っています。閉店については、サークルKが143店、サンクスが80店となり、サークルKサンクスで計画通りの223店を閉めました。



サークルK近畿中央病院店



サンクス中部国際空港店

都道府県別店舗数: 36都道府県6,339店 (2005年2月28日現在)

(単位: 店)

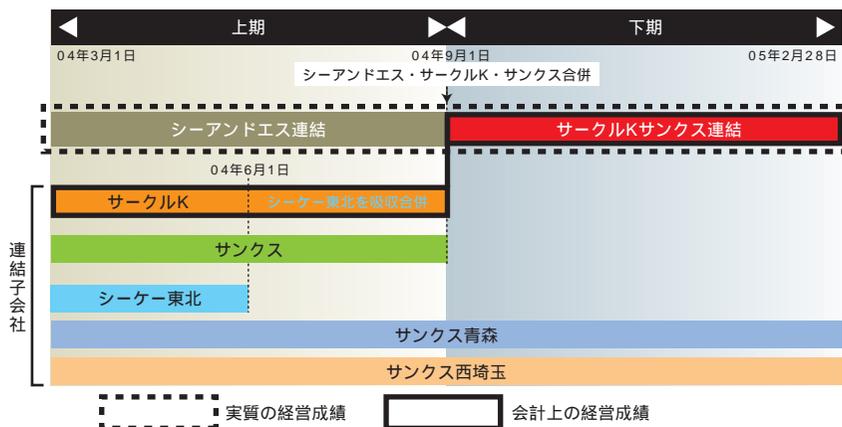
		サークルKサンクス	サークルK	サンクス
北海道		273	-	273
東北	青森	176	109	67
	岩手	95	7	88
	秋田	111	26	85
	宮城	123	-	123
	山形	68	-	68
	福島	11	-	11
関東	栃木	37	-	37
	茨城	60	-	60
	千葉	206	-	206
	埼玉	180	-	180
	東京	660	67	593
	神奈川	342	129	213
中部・北陸	新潟	55	55	-
	長野	111	111	-
	福井	61	52	9
	富山	146	72	74
	石川	193	118	75
	静岡	333	298	35

		サークルKサンクス	サークルK	サンクス
中京三県	岐阜	264	243	21
	愛知	1,061	858	203
	三重	233	199	34
関西	滋賀	56	52	4
	京都	164	109	55
	兵庫	192	47	145
	大阪	407	144	263
	奈良	117	58	59
	和歌山	13	13	-
中国	岡山	137	88	49
	広島	34	3	31
四国	香川	82	14	68
	徳島	67	2	65
	愛媛	138	76	62
	高知	60	31	29
九州	熊本	10	-	10
	鹿児島	63	-	63
全国計		6,339	2,981	3,358

(注)上記店舗数はエリアFCを含んでいます。

2005年2月期における当社決算数値の見方

下図の通り2005年2月期は、連結子会社の吸収合併のほか、シーアンドエス・サークルK・サンクス3社の合併がありました。この影響で、決算短信や一部の投資情報誌・投資情報サイトで掲載されている会計上の数値が当社の実体を表していない数値となっています。この会計上の数値は黒い太枠の通り、サークルKサンクスの存続会社であるサークルKの上期単体決算とサークルKサンクスの下期連結決算を合算したものであり、上期のサンクスが抜け落ちているためです。当社の経営成績を正しく表す実質ベースの数値は点線枠の通り、上期のシーアンドエス連結決算と下期のサークルKサンクス連結決算を合算したものとなります。この「WAKUWAKU?通信」や決算短信P.3の参考情報のほか、当社ホームページ掲載の開示資料では、可能な限り実質ベースにてご報告をしております。



会計処理変更による2006年2月期決算への影響

当社は2006年2月期の決算において、下記3点の会計処理を変更します。従来通りの会計処理を行った場合の業績と比べると、連結営業利益および連結経常利益はそれぞれ1億3千万円増加し、連結当期純利益は15億円減少する見込みですが、これらの増減は会計処理の変更による影響であり一時的です。以下、3つの変更点をご説明いたします。

1. 減損会計の導入

当社は減損会計を導入し、財務体質の一層の強化を図ってまいります。減損会計とは、固定資産の収益性が低下したことにより投資額の回収が見込めなくなる恐れのある場合に、一定の条件の下で回収の可能性を反映させるよう帳簿価格を減額し、その差額を損失として計上する会計処理です。当社の場合、将来閉店となる可能性のある不採算店舗が主な対象となり、現時点では約330店を対象に試算しています。この減損会計により、従来の会計処理に比べて減価償却費とリース料が6億8千万円減少し、特別損失として45億5千万円が発生する見込みです。なお、この損失は将来実際に閉店をした場合に発生する閉店損失を前倒しで計上したものとご考え下さい。

2. ユニグループ厚生年金基金代行返上

代行返上に伴う退職給付の会計処理により、特別利益14億9千2百万円を見込んでいます。

3. 外形標準課税の適用

事業税として計上される金額のうち、資本割および付加価値割に対応する負担相当額5億5千万円が販売費及び一般管理費として計上される見込みです。

要約財務諸表

加盟店貸勘定

ほぼ横ばいとなりましたが、エリアフランチャイザーのサンクス青森とサンクス西埼玉が連結子会社として加わったことによる1億2千4百万円の増加が含まれています。

有価証券

すべてMMFやFFFなど、容易に換金が可能で、かつ価値の変動についてはわずかなりリスクしか負わず、現金同等物として取り扱われるものです。2004年11月に株主様へお支払いした合併交付金などに充てるため取り崩しました。

有形固定資産 / 長期差入保証金

当期は店舗数が純増したため、建物及び構築物などを中心とする有形固定資産や店舗賃借に関する長期差入保証金が増加しました。有形固定資産は、連結子会社2社が増えた影響額14億6千2百万円と合わせ26億2千8百万円増加し、長期差入保証金も連結子会社2社が増えた影響額8億1千3百万円と合わせ19億5千万円増加しています。

ソフトウェア

既に構築しているソフトウェアの減価償却が進んだため、期末残高が減少しました。

連結調整勘定

連結調整勘定とは、1998年にサークルKがサンクスの株式を取得した際の時価と簿価の差額を每期償却していたものですが、今回の合併によりシーアンドエスとサンクスの間で生じていた連結調整勘定がなくなりました。05/2期末の4億2千8百万円はその他の連結子会社に対するものです。

連結貸借対照表

(単位:百万円)

	サークルKサンクス 連結 2005年2月期 2005年2月28日現在	シーアンドエス 連結 2004年2月期 2004年2月29日現在	増減
[資産の部]			
流動資産	80,962	75,230	5,731
現金及び預金	46,917	39,654	7,263
加盟店貸勘定	3,564	3,600	35
有価証券	12,701	13,101	399
たな卸資産	2,213	1,922	291
前払費用	3,241	3,051	189
繰延税金資産	863	2,130	1,267
未収入金	8,299	9,062	762
その他	3,789	3,300	489
貸倒引当金	629	593	36
固定資産	120,093	129,642	9,549
有形固定資産	42,353	39,724	2,628
建物及び構築物	29,004	25,980	3,024
機械装置及び運搬具	23	29	6
器具及び備品	3,531	4,199	668
土地	9,537	9,367	170
建設仮勘定	256	147	108
無形固定資産	7,994	20,770	12,776
ソフトウェア	5,092	7,021	1,928
ソフトウェア仮勘定	73	162	89
連結調整勘定	428	11,224	10,795
その他	2,399	2,362	37
投資その他の資産	69,744	69,147	597
投資有価証券	5,793	5,820	27
繰延税金資産	3,130	4,731	1,600
長期差入保証金	54,616	52,665	1,950
その他	7,545	8,069	523
貸倒引当金	1,340	2,140	799
資産合計	201,055	204,873	3,817

(単位:百万円)

	サークルKサンクス 連結 2005年2月期 2005年2月28日現在	シーアンドエス 連結 2004年2月期 2004年2月29日現在	増減
[負債の部]			
流動負債	72,526	75,877	3,351
買掛金	39,034	40,909	1,875
加盟店借勘定	3,184	3,111	72
短期借入金	169	500	330
未払金	5,442	6,446	1,004
未払法人税等	2,892	3,313	420
預り金	17,670	16,746	923
賞与引当金	722	724	2
その他	3,410	4,124	714
固定負債	18,485	18,049	435
長期借入金	42	-	42
退職給付引当金	4,553	4,499	54
役員退職慰労引当金	68	328	260
預り保証金	12,737	13,023	286
その他	1,083	198	884
負債合計	91,011	93,927	2,916
[少数株主持分]			
少数株主持分	0	-	-
[資本の部]			
資本金	8,380	13,469	5,089
資本剰余金	36,091	26,223	9,868
利益剰余金	64,829	70,731	5,902
その他有価証券評価差額金	748	596	152
自己株式	5	74	68
資本合計	110,043	110,945	902
負債、少数株主持分及び資本合計	201,055	204,873	3,817

買掛金 / 未払金

商品代金、各種費用の期末時点における未払残高です。前期は2月が閏年だったため例年に比べ残高が大きくなっています。なお、連結子会社2社が増えた影響額は買掛金8億7千1百万円、未払金6億6千2百万円です。

預り金

当期末の預り金は176億7千万円で、前期末に比べ9億2千3百万円増加しました。預り金のほとんどは、公共料金などの収納代行サービスによるものです。公共料金の取り扱い金額は、エリアFCを含むサークルK サンクス計で前期比12%増と順調な伸びを示しています。

役員退職慰労引当金

合併により、シーアンドエスやサンクスなどの役員退職慰労金を清算したため期末残高が減少しました。

販売費及び一般管理費

前期比24億2百万円増となりました。主な要因は連結子会社2社が加わったことによる25億4百万円の増加です。2004年4月の郵便ポストの全店設置に加え、合併を機に拡大した広告宣伝や下期におけるおでん什器の導入といった経費の増加要因はありましたが、減価償却費が減少したことや連結調整勘定償却費が3億9千1百万円減少したことなどで、実質的にほぼ横ばいに抑えることができました。

営業外費用 / 特別損失

ほとんどが店舗閉店に伴う損失です。構造改革を行った前期と比べ大幅に減少しています。なお、連結子会社2社が増えた影響額は営業外費用6千2百万円、特別損失3千2百万円です。

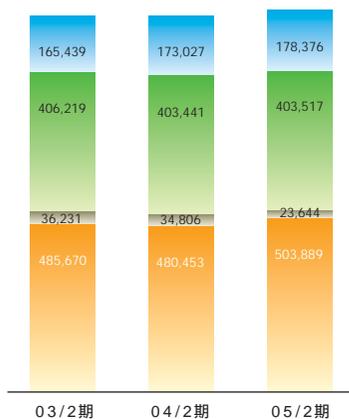
連結損益計算書

(単位:百万円)

	サークルKサンクス 連結(実質ベース) 2005年2月期 2004年3月1日から 2005年2月28日まで	シーアンドエス 連結 2004年2月期 2003年3月1日から 2004年2月29日まで	増減
営業収入	117,966	114,354	3,612
売上高	58,876	55,147	3,729
営業総収入	176,843	169,501	7,341
売上原価	44,744	41,754	2,990
営業総利益	132,099	127,747	4,351
販売費及び一般管理費	107,714	105,311	2,402
営業利益	24,384	22,435	1,949
営業外収益	1,004	847	156
営業外費用	1,763	3,581	1,817
経常利益	23,625	19,701	3,923
特別利益	158	82	75
特別損失	1,633	4,860	3,227
税金等調整前当期純利益	22,150	14,923	7,226
法人税、住民税及び事業税	6,729	7,847	1,117
法人税等調整額	2,765	574	3,340
少数株主利益	0	-	-
当期純利益	12,654	7,651	5,002

グループ売上高の推移 (単位:百万円)

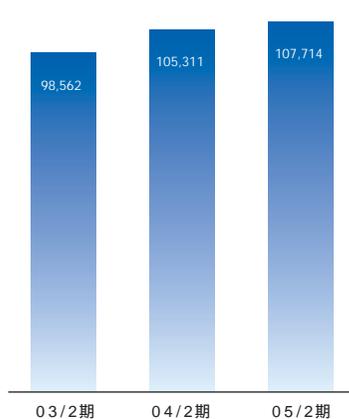
■ サークルK本体 ■ サークルKエリアFC
■ サンクス本体 ■ サンクスエリアFC



販売費及び一般管理費の推移

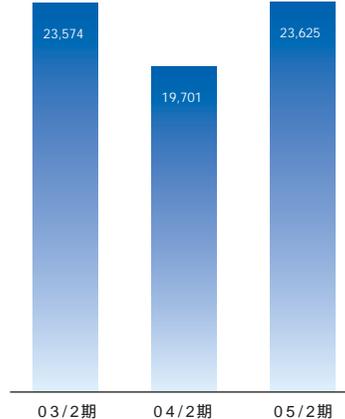
(単位:百万円)

■ シーアンドエス/サークルKサンクス



経常利益の推移 (単位:百万円)

■ シーアンドエス/サークルKサンクス



連結剰余金計算書

(単位:百万円)

	サークルKサンクス 連結 2005年2月期 2004年3月1日から 2005年2月28日まで	シーアンドエス 連結 2004年2月期 2003年3月1日から 2004年2月29日まで
[資本剰余金の部]		
資本剰余金期首残高	36,090	26,223
資本剰余金増加高		
自己株式処分差益	0	-
資本剰余金期末残高	36,091	26,223
[利益剰余金の部]		
利益剰余金期首残高	12,761	65,932
利益剰余金増加高		
当期純利益	9,372	7,651
合併に伴う利益剰余金増加高	43,827	-
利益剰余金減少高		
配当金	1,100	2,757
役員賞与	30	93
自己株式処分差損	-	2
利益剰余金期末残高	64,829	70,731

05/2期におけるサークルKサンクスの連結剰余金計算書は、P.8の黒太枠で示した会計上の数値です。このため05/2期のサークルKサンクス期首残高は、存続会社であるサークルKの期首残高となっており、04/2期シーアンドエスの期末残高と一致していません。また、05/2期の配当金と役員賞与はサークルKが2004年5月に支払ったものであり、05/2期の当期純利益は会計上のサークルKサンクスの数値となっています。

合併に伴う利益剰余金増加高

合併時のシーアンドエスとサンクスの自己資本合計から、合併によりなくなるシーアンドエスが持っていたサークルK株式およびサンクス株式の貸借対照表における計上額を差し引き、その他連結子会社が増えた影響など必要な調整を行った額です。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	サークルKサンクス 連結 2005年2月期 2004年3月1日から 2005年2月28日まで	シーアンドエス 連結 2004年2月期 2003年3月1日から 2004年2月29日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,033	27,506
投資活動によるキャッシュ・フロー	10,783	10,049
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,864	4,093
現金及び現金同等物の増減額	1,614	13,363
現金及び現金同等物の期首残高	34,780	39,392
合併及び合併による新規連結子会社の増加に伴う現金及び現金同等物の増加額	25,653	-
現金及び現金同等物の期末残高	58,820	52,756

05/2期におけるサークルKサンクスの連結キャッシュ・フロー計算書は、P.8の黒太枠で示した会計上のサークルKサンクスの数値です。このため04/2期シーアンドエスの数値と一概に比較できませんが、構造改革を行った前期に比べ店舗が純増した影響やP.5でご紹介したゼロバンク関連の会社設立などの支出があったため、合併や連結子会社の増加による影響を除くと、現金及び現金同等物はこの1年間で16億1千4百万円減少しました。

個別貸借対照表

(単位:百万円)

	2005年2月期 2005年2月28日現在
[資産の部]	
流動資産	80,992
固定資産	117,838
有形固定資産	40,891
無形固定資産	7,549
投資その他の資産	69,396
資産合計	198,830

(単位:百万円)

	2005年2月期 2005年2月28日現在
[負債の部]	
流動負債	70,703
固定負債	18,101
負債合計	88,804
[資本の部]	
資本金	8,380
資本剰余金	36,091
利益剰余金	64,811
その他有価証券評価差額金	748
自己株式	5
資本合計	110,026
負債・資本合計	198,830

個別損益計算書

(単位:百万円)

	2005年2月期 2004年3月1日から 2005年2月28日まで
営業総収入	134,843
売上原価	36,407
営業総利益	98,435
販売費及び一般管理費	79,600
営業利益	18,834
営業外収益	720
営業外費用	1,485
経常利益	18,069
特別利益	86
特別損失	1,043
税引前当期純利益	17,112
法人税、住民税及び事業税	5,018
法人税等調整額	2,466
当期純利益	9,627
前期繰越利益	6,096
合併により承継した未処分利益	5,136
合併に伴う株式消却額	5,158
当期末処分利益	15,702

利益処分計算書

(単位:百万円)

	2005年2月期
当期末処分利益	15,702
利益処分量	
配当金	1,723
役員賞与金	60
(うち監査役賞与金)	(7)
任意積立金	
別途積立金	12,000
次期繰越利益	1,919

環境への取り組み・社会貢献活動

サークルKサンクスは、様々な環境保全活動および社会貢献活動を通して、社会の一員としての責任を果たしてまいります。

環境への取り組み

サークルKサンクスとしてISO14001認証登録

従来、サークルKとサンクスがそれぞれ個別に取得していたISO14001認証を、2005年2月にサークルKサンクスとして登録しました。

愛・地球博での取り組み

当社は、愛・地球博のメインテーマである「自然の叡智」を踏まえ、博覧会においても環境に配慮した取り組みを行っています。P.5でご紹介した「サークルK愛・地球博店」では、リサイクル資材や省エネ型の設備を採用し、博覧会終了後に資材や設備を再利用できる工法を用いました。また、同店では、既存の類似商品より塩分とカロリーを約半分に抑え、栄養バランスの偏りにも配慮した健康志向の弁当を販売しています。そのほか、愛・地球博のライセンス商品として発売したオリジナル菓子のパッケージ素材には、トウモロコシなど植物性原料からできたプラスチック「生分解性フィルム」を採用しました。

当社子会社が瀬戸会場に出店している小型コンビニエンスストア「ポケット・コンビ」でも販売。



サークルK愛・地球博店



健康志向弁当
「洋風プレート」

社会貢献活動

店頭募金活動

2005年2月期にサークルKサンクスへお寄せいただいた募金は1億1,927万2,334円となりました。当期は通例の寄託先に加え、台風や地震による被災地への義援金寄託を行いました。

寄託先	義援金	三重県(台風21号災害)、兵庫県・京都府・岐阜県・徳島県(台風23号災害) 新潟県(新潟県中越地震)、日本赤十字社「スマトラ沖地震救援金」
	サークルK	全国盲導犬施設連合会「全国盲導犬普及キャンペーン」 日本赤十字社「海外被災者救援募金」 クリーンアップ全国事務局「JEAN」環境保全募金」
	サンクス	国連児童基金(ユニセフ)

特定非営利活動法人(NPO)への支援活動

企業活動から得られる利益の一部を、人道支援を目的として下記のNPO団体へ寄託し、その活動を支援しています。

(国内) 特定非営利活動法人 ファミリーハウス

難病と闘う子どもたちとその家族に宿泊施設を提供し、経済的負担を軽減。

(海外) 特定非営利活動法人 国境なき子どもたち(KnK)

カンボジアなどの恵まれない子どもたちを受け入れる自立支援施設「若者の家」を運営。

特定非営利活動法人 学校をつくる会(JHP)

カンボジアを中心に学校建設のボランティア活動を展開。

2003年12月の1校目に続き、2004年11月には2校目の「みんなの夢学校」が開校し、約1,200名の子どもたちが勉強しています。

みんなの夢学校
2校目開校!



クリーンアップキャンペーン

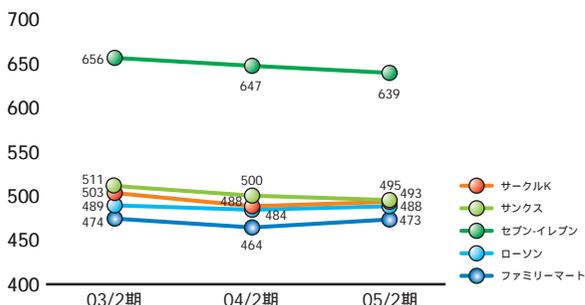
春と秋の年2回、加盟店様や店舗スタッフ、本部社員が一体となって、公園や海岸など各地域の美化活動にボランティアとして参加しています。2005年4月から5月にかけて全国約50会場にて約1,300名が参加しました。

コンビニエンスストア業界比較

当社に関するご理解をよりいっそう深めていただけるよう、このページでは、コンビニエンスストア業界におけるサークルKサンクスという視点で営業指標をまとめました。

全店日販(単位:千円)

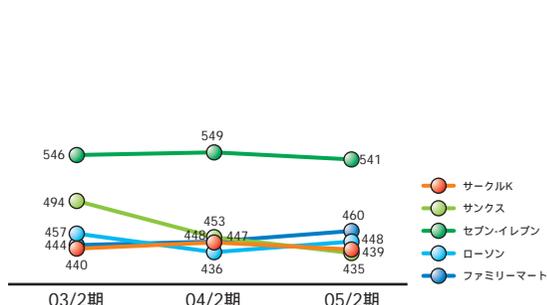
1日1店あたりの平均売上高



03/2期よりやや低下しているもののセブン-イレブンは唯一60万円台となりました。その他4チェーンはハイウェイカード販売終了の影響などで04/2期に落ち込みましたが、05/2期にはサンクスを除く3チェーンが回復しました。この4社内の差および4社とセブン-イレブンの差はこの3期で縮小しています。05/2期のサークルKおよびサンクスは50万円をわずかに割りこみました。

新店日販(単位:千円)

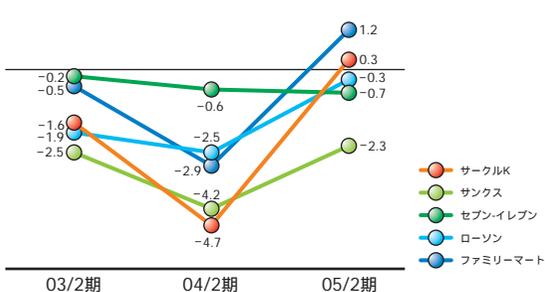
新店(開店後1年以内の店舗)における1日1店あたりの平均売上高



全チェーンとも全店日販に比べると新店日販の金額は低いですが、セブン-イレブンに4社が続く傾向は変わりません。ただし、その差は新店日販の方が小さくなっています。各社とも質を重視した出店に努めておりますが、03/2期と05/2期を比べると、ファミリーマートを除く4チェーンが低下しています。

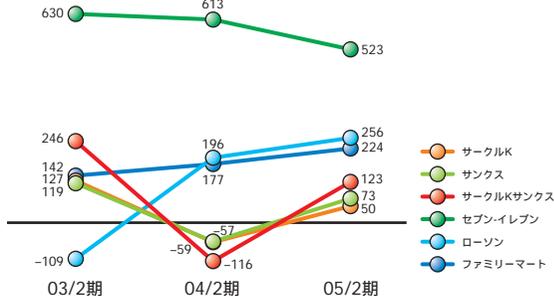
既存店売上前年比(単位:%)

既存店(開店後1年以上経過した店舗)における売上高の前年比



セブン-イレブンを除く4チェーンは、全店日販の欄で述べた通りハイウェイカードの影響を受け04/2期に大きく落ち込みましたが、05/2期には4チェーンとも03/2期の水準を超える回復を見せました。中でもファミリーマートとサークルKは前年比プラスとなり、それぞれ1.2%、0.3%となりました。

店舗純増数(単位:店)



セブン-イレブンが純増数はやや減少傾向でありながら業界トップとなりました。ローソンとファミリーマートは両社で増加速度が異なるものの、他チェーン店舗営業権の買収なども含めて、ともに純増数は伸長傾向にあります。サークルKサンクスは、04/2期の大量閉店による純減から05/2期は純増へ戻りましたが、業界における純増数は4番目となりました。

株主還元策

株主還元策の基本方針

当社は高い成長性を維持するとともに、新店の開発や既存店の活性化、新規商品の什器や設備の導入など経営基盤を強化するための内部留保を充実させながら、業績の伸びに沿って株主の皆さまへ利益を還元してまいります。具体的には、第一に安定配当の維持を考え、利益の伸びに応じて連結当期純利益の約20%を配当として還元する方針です。また、将来的には配当性向を30%まで高めていきたいと考えております。

2005年2月期 期末配当 4円増配

2004年9月のサークルKサンクス誕生を記念し、株主様の日頃のご支援にお応えするべく、2005年2月期の期末配当を、記念配当2円を含む前期比4円の増配とし、1株あたり20円とさせていただきました。株主様へお支払する期末配当額は下記の算式の通りとなります。

$$\text{お支払金額} = 20\text{円} \times \text{ご所有株式数} \times 0.9$$

(×0.9は源泉徴収税として10%が引かれるため) 法人の場合を除く

期末配当のお受け取り日については、裏表紙のカレンダーをご覧ください。これにより2005年2月期の年間配当は36円、配当性向は24.6%となりました。

株主優待制度

サークルK・サンクス全店でご利用いただける「株主様ご優待カード」(1枚500円相当)を、右表の通り株数に応じて年2回、8月末および2月末の株主様に対して進呈しています。「株主様ご優待カード」は、公共料金や通信販売代金などの料金収納、Edyへのチャージ(入金)を除くすべての商品のお支払にご利用いただけます。有効期限は約1年となっております。裏表紙のカレンダーにもご利用最終日を記載していますのでご参照下さい。なお、有効期限を過ぎたカードはご利用になれませんのでご了承下さい。

1株あたり指標

ご参考までに、1株あたり指標などを下表にまとめましたのでご活用下さい。

	02/2期	03/2期	04/2期	05/2期	06/2期(予)
1株あたり当期純利益	131.2	132.3	87.8	146.2	145.6
1株あたり株主資本	1,130.4	1,230.2	1,286.7	1,276.6	1,383.8
株主資本配当率	2.4	2.6	2.5	2.8	2.6

(注)1. 04/2期の1株あたり当期純利益は、大量閉店に伴う閉店損失などにより減益となったため、非常に低い数値を示しています。
2. 02/2期～04/2期はシアンドエスの数値です。

配当金の推移(単位:円)



(注)1. 04/2期の配当性向は、大量閉店に伴う閉店損失などにより減益となったため、非常に高い数値を示しています。
2. 02/2期～04/2期はシアンドエスの配当金です。

ご所有株式数	株主優待内容
100～499株	1,000円分(年2,000円分)
500～999株	2,500円分(年5,000円分)
1,000株以上	5,000円分(年10,000円分)



株主様アンケート結果のご報告

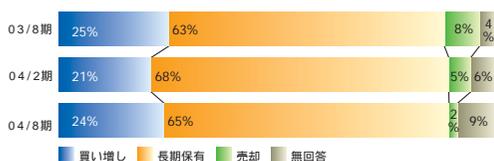
「2004年8月期 WAKUWAKU?通信」において、株主様にアンケートを実施させていただきましたところ、これまでで最も多い710名の方よりご回答を頂戴しました。お忙しい中ご協力いただき、誠にありがとうございました。下記にご回答の集計結果をご報告いたします。

過去最多のご回答数にも表れていますが、ご意見を拝見していても、株主様の当社に対する関心は回を重ねるごとに高まっていると感じております。今後も関心をさらに高めていただけるよう、「WAKUWAKU?通信」をはじめ積極的なIRに取り組んでいく考えです。

回答率：6.6%(前回比+0.6%)

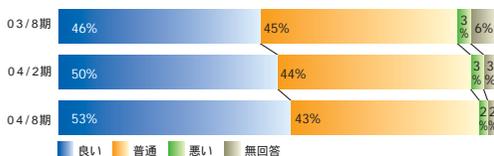
当社株式に関する今後の方針

おおよその傾向に変化はありませんが、04/2期に比べると「買い増し」が微増となりました。



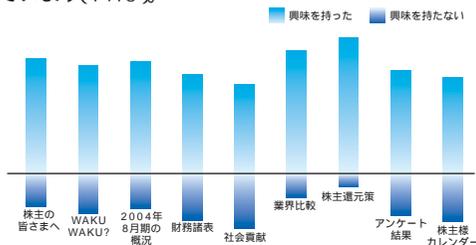
当社IR 投資家向け広報への評価

改善傾向にあり、04/8期には半数以上の方から「良い」とのご評価を頂戴しました。また「良い」と思う理由には、「WAKUWAKU?通信のわかりやすさ」を最も多く挙げていただきました。



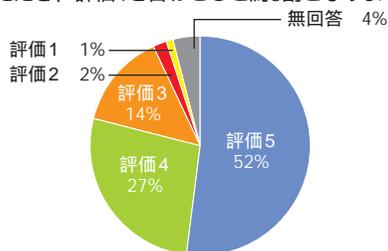
「WAKUWAKU?通信」への関心度

ご関心の高かった項目ベスト3は、①株主還元策、②コンビニエンスストア業界比較、③株主の皆さまへ、でした。新しく設けた「株主還元策」のページがご関心の最も高い項目であったことを受け、今回の誌面でも詳細にお伝えしています(P.16)。



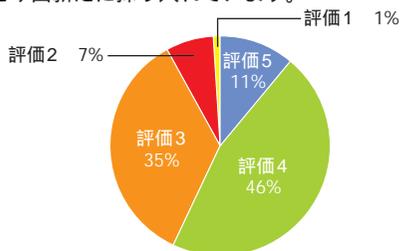
合併に伴う株主還元のワクワク度

04年11月に実施しました優待カードのプラス1枚進呈と05/2期末配当の増配については、5段階で評価5を半数以上の方からいただき、評価4を合わせると約8割となりました。



「WAKUWAKU?通信」に関するワクワク度

最も多かったのは評価4で約半数、そして評価3が続きました。株主様からのご意見をもとに、1株あたり指標(P.16)を今回新たに採り入れています。



♥アンケートご協力のお願い♥

当社では、「WAKUWAKU?通信」の誌面づくりやIR活動、経営全般において、皆さまからの率直なご意見をお聞かせいただきたいと考えております。つきましては大変お手数ですが、同封のアンケートにご協力いただければ幸いです。ご回答をご記入のうえ、ご住所とお名前の欄に添付のプライバシー保護シールを貼り、切手を貼らずにそのままご投函下さい。

【個人情報の取扱いについて】

アンケートにご記入いただきましたお名前・ご住所・性別・年齢の個人情報は、アンケート結果の分析および頂戴したご質問などに対する弊社からの返信のみに使用し、法令を遵守の上厳格に管理いたします。

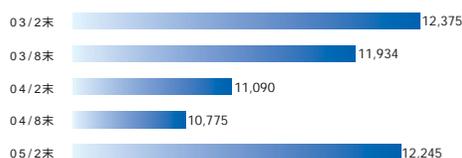
株式情報

株式数

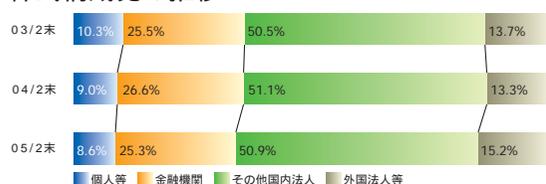
(2005年2月28日現在)

会社が発行する株式の数	180,000,000株
発行済株式総数	86,183,226株

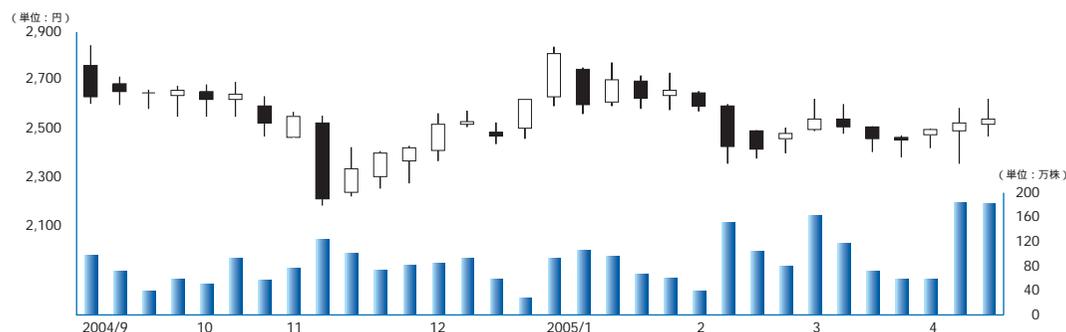
株主数の推移 (単位:人)



株式構成比の推移



株価および出来高の推移



会社情報

(2005年5月25日現在)

会社概要

商号	株式会社サークルKサンクス
本部所在地	〒135-8539 東京都江東区塩浜二丁目20番1号塩浜ビル
電話番号	03-5635-3939(代表)
登記上本店所在地	愛知県稲沢市天池五反町1番地
ホームページアドレス	http://www.circleksunkus.jp
設立	2001年7月2日 (注)サークルKサンクスの前身であるサークルケイ・ジャパン株式会社が、持株会社の株式会社シーアンドエス発足に伴い会社分割した日。会社分割前のサークルケイ・ジャパン株式会社は1984年1月26日設立。
資本金	83億8,040万円
銘柄コード	3337 サークルKS

大株主(上位10位)

(2005年2月28日現在)

株主名	持株数	持株比率
ユニー株式会社	40,746,520	47.28%
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	7,378,500	8.56%
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	5,128,200	5.95%
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー505103	1,147,498	1.33%
野村證券株式会社	1,107,100	1.28%
ザチェースマンハッタンバンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカウント	805,882	0.94%
橋高 隆哉	775,262	0.90%
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口4)	774,300	0.90%
みずほ信託退職給付信託みずほコーポレート銀行口 再信託受託者資産管理サービス信託	617,600	0.72%
第一生命保険相互会社 特別口	595,500	0.69%

役員

取締役会長	外山 泰三
代表取締役社長	土方 清
代表取締役専務(開発統括本部長)	夫馬 泰彦
代表取締役専務(運営統括本部長)	石原 彰
常務取締役(運営統括本部サンクス運営本部長)	滝田 貞男
取締役(総務人事本部長)	平野 俊文
取締役(運営統括本部サークルK運営本部長)	安藤 照康(新任)
取締役(システム本部長)	高橋 一夫(新任)
取締役(マーケティング本部長)	中村 元彦(新任)
取締役(非常勤)	佐々木孝治
常勤監査役	宮崎 恒充
常勤監査役	加納 憲治
常勤監査役	小倉 恒久
監査役	桂川 明
監査役	都築 義明

株主様カレンダー

2005.5.25

第4回定時株主総会・事業説明会開催 / 大手町サンケイプラザにて
下記3点を発送
配当金関係書類
05/2期 WAKUWAKU? 通信
株主様ご優待
カード



2005.5.26

配当金振り込みの方
本日付でご指定の口座へ振り込まれます

2005.5.26-6.27

配当金郵便局受け取りの方
上記の期間、郵便局でお受け取りになれます
6/28以降はお近くの住友信託銀行にてお受け取り下さい

2005.5.31

株主様ご優待カード
ご利用最終日
(04年春発行分)



2005.7.7(予定)

第1四半期決算発表

2005.8.16-8.31

単元未満株式買い増し
手続き受付停止期間

2005.8.25

サークルKサンクス
権利付株式最終売買日

2005.8.26-8.31

上記の期間に当社株をご購入されても、05年8月末における配当・優待の権利は得られません

2005.10.13(予定)

06/2期中間決算発表

2005.11(中旬)

06/2期中間WAKUWAKU?
通信など株式関係書類発送

2005.11.30

株主様ご優待カード
ご利用最終日
(04年秋発行分)



CircleK Sunkus



単元未満株式買い増し制度

単元(100株)未満株式の買い増し制度により、例えば現在30株をお持ちの場合、70株を買い増して100株にすることが可能です。下記の受付停止期間を除いて1年中いつでも買い増しいただけます。手続きの詳細は、株式のご所有形態によって異なりますので、下記までお尋ね下さい。

受付停止期間: 本決算および中間決算の期末日を含む各々それ以前の12営業日(カレンダーご参照)

当社が売り渡すべき株式を保有していない場合、ご請求に応じられないことがあります。

お問合わせ先: 保管振替制度をご利用の方 お取引の証券会社

登録株となっている方 住友信託銀行(株主メモご参照)

株主メモ

決算期 毎年2月末日

株主確定基準日

定時株主総会、利益配当金 : 毎年2月末日

中間配当金 : 毎年8月31日

その他必要がある場合は、あらかじめ公告いたします。

定時株主総会 決算期から3ヵ月以内

1単元の株式数 100株

上場証券取引所

東京証券取引所および名古屋証券取引所市場第一部

公告掲載新聞名 日本経済新聞

貸借対照表および損益計算書掲載のホームページアドレス

<http://www.circleksunkus.jp/company/investor/ir/index.html>

名義書換代理人

大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番4号

住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先)

〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10

住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)

住所変更等用紙のご請求

☎ 0120-175-417

その他照会

☎ 0120-176-417

(インターネットホームページURL)

<http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

同取次所

住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店